日本語の数量詞使用に関する考察
―構文的分析を中心に―

洪 雅琪　上原 聡
東北大学大学院国際文化研究科
E-mail:a5kd1012@intcul.tohoku.ac.jp/uehara@insc.tohoku.ac.jp

1．はじめに

日本語の数量詞は事物を数える際、原則として数詞及びその数詞に直接付く助数詞から成り立つ概念であるが、助数詞を略しても成立できると考えられる。その表現形式を＜数量詞：{数詞＋（助数詞)}＞として捉えることにする。

従来、数多くの研究ではテキストのような典型的考察が行われてきたが、実際での用例分析についてはまだ十分な研究がなされていない。それゆえ、広告文では数量詞がどのような機能を果たしているのか、どのように位置されているのかについて、より一層探究するため、構文的な研究を通じて考察を進めていく。

2．先行研究

数量詞の構文に関して、いわゆる数量詞を含む名詞句から数量詞だけが遊離し副詞的な位置に移動するという説が構文論的に考えられてきた。例えば、奥津（1969）では「昔ある所に三匹の子豚が住んでいました」と「昔ある所に子豚が三匹住んでいました」という二つの文がよく取り上げられるが、知的意味は同じであると言えるのだろう。また、益岡（1981）は数量詞の遊離規則について循環的な概念である文法関係を対象とした立場[1]を採用すべきだと論じている。矢澤（1985）では数量詞の表す意味を「達成量」と「同時量」とに分け、述部との関わり方の違いが生ずるとしている。

以上挙げられたように、構文的な考察は現在のところでは英語と対応する遊離現象として行われているが、数量詞そのものの実態、つまり実際での使用や機能と意味の関連性について検討する必要があると考える。

3．用例の分析

広告は我々の日常生活に多大な影響を与えるため、本研究はこの広告をデータに研究を深めていきたい。なお、分析資料としては文字化された資料（2001 年の朝日新聞のうち、1 月から 6 月までの日刊の 12・13・14 面及び夕刊の 2・3・4 面）からデータを収集し、数量詞に関わる使用表現を取り上げて分析し、その構文上の意味や機能を考察する。

佐治（1991）によれば、文には独立語文と述語文がある。そのうち、述語文についてさらに存現文と題述文とに分けることができる。存現文と題述文については、佐久間（1940）と三上（1953）と佐治（前掲）に詳しく、この分類法に基づいて収集した結果によると、数量詞が現われる存現文の次数は極めて少ないので、今回の考察対象から外すことにする。上述したことをまとめると、数量詞についての構文的な位置は以下のように示す。

表１　広告キャッチに出現する数量詞の位置

<table>
<tr><td colspan="7">文
（約 560 回）[2]</td></tr>
<tr><td colspan="6">述語文
（約 540 回）</td><td rowspan="5">独立
語文
（約
20 回）</td></tr>
<tr><td colspan="5" rowspan="2">題述文
（約 538 回）</td><td rowspan="2">存現文
（
約
2 回）</td></tr>
<tr><td colspan="2">顕題の文</td><td colspan="2">陰題の文</td><td rowspan="3">叙述部</td></tr>
<tr><td colspan="2">顕題明示</td><td>顕題
省略</td><td>転位
陰題</td><td>状況
陰題</td></tr>
<tr><td>主
題
部</td><td>叙
述
部</td><td>叙述
部</td><td>叙述
部</td><td>叙述
部</td><td></td></tr>
</table>

[1]益岡（1981）は、生成文法では、一般的に、受動文、使役文等に対して埋め込み文をもつ複文構造を深層構造として仮定する立場が採られてきた。この場合、文法関係の概念は、深層構造にも適用されてのであるから、循環的な概念であると考えなければならない、と主張している。

[2] カッコ内の数字は筆者により数量詞が出現している頻度の数を示す。

表１から見られたように、題述文の下位にある文の構造はほとんど叙述部しか存在しない。その中、特に顕題明示の文にだけ主題部と叙述部という両者が併存していることが分かる。つまり、「(顕題明示の）文＝主題部＋叙述部」という概念が成り立つことを意味している。このことについて、佐治氏が次のように「体言＋は―叙述部」の説明をしている。

> 構文上、それについて解説・説明されるべき題目として提示された成分。叙述と対立し、統一されて題述文を作る。徒の体言に係助詞[3]「は」のついた文節、およびそれ相当の徒の体言。なお、主題は文節相当の連文節で示される場合もある。そのような主題を必要な時には、主題部と呼ぶこともある。(p.64)

上述したことを大まかに言えば、「(顕題明示の）文＝主題部＋叙述部」という概念が成り立つことを意味している。このことを図示すれば、次の通りである。

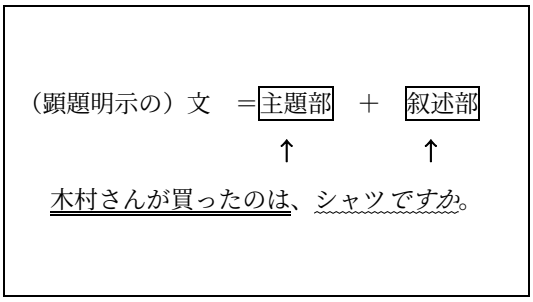

図１　顕題明示の文の構造

本研究ではこの基準に従い、広告キャッチの例文から「ハ」がついた文だけを取り上げ、数量詞の構文的分析を試みていく。

４．統計結果

今回、考察結果により数量詞が主題部に現れるものと叙述部に現れるものとは、同じ回数で各 30 例あることが分かった。そこから更に数量詞の意味について大きく分けると、名付けのものや数量のものによって区別することが認められる。

４．１　主題部における数量詞

一般的に主題となっているものは旧情報とみなすように、主題部に出現する数量詞はほとんど名付けのものであり、21 例あることが見られる。以下に、その実例の一部を示す。

（1）21 世紀は、どんなふうに微笑むのだろう。
小学館
（2）本日1月 10 日、ＮＴＴ東日本は市内電話おさげしました。　ＮＴＴ東日本
（3）2月は「省エネルギー月間」です。
（財）省エネルギーセンター
（4）21 世紀は、もう少し肝臓くんを休ませてあげたいね。　SUNTORY

以上の例文から、主題部に現れる数量詞は、主語となっているものであり、名詞的な機能を果たしていることが考えられるのであろう。例えば、例（2）の「本日１月 10 日」では、名詞に同格的な意味を加える機能である（宇都宮 1995）[4]。以上のことに対して、主題部に現れる数量詞では、基本的な働きとしている量化機能[5]は、ただ１例のみである。

（5）千年は生きたいなー
沖縄自然薬草センター

例（5）から見ると、「千年」の数量詞が「は」を伴うように、少なくともという意味を表しているため、本来の量化機能とは違って別の用法とみなすべきのではないかと考えられる。

一方、主題部に現れる数量詞については、上述した名付けのもの及び数量のもののほかに、いくつかの例もある。

(6) 輸入車No.1の、次の手は？　VOLKSWAGEN
（7）３階の娘の部屋は、会社より遠い。
ヘーベルハウス

例（6）（7）では、「輸入車 No.1」と「3 階の娘の部屋」は名詞を修飾する形容詞の働きに似て、限定の機能を果たすとも言える。つまり、「2000cc の車」という例が示されるように、名詞の数量を表すことにあるのではなく、名詞の属性を表す働きをしていると解釈できる。

（8）a. 下90以上～上 140 以上もこれからは高血圧です。
b. 下 90 以上～上140以上もこれからは高血圧です。　ファルマシア株式会社

[3] 助詞を「格助詞」「副助詞」「係助詞」「終助詞」「間投助詞」「接続助詞」の六種類に分けることは山田孝雄氏によって始められるのである。

[4] 宇都宮（1995）で挙げられた例として「十秒三の世界記録」と「年齢十五歳」などがこれに当てはまるという。

[5] 例えば、「5 人の学生」「三枚の紙」などは数量詞の基本的な使用で量化という機能が観察される。

（9）東海道四〇〇年を記念して、今年の静岡は、イベントがもりだくさん。合言葉は「この指とまれ」。県外からのサンかも大歓迎です。
静岡県

（10）開局15 周年文字放送は無料で、好きな時に、ご覧になれます！　朝日レタービジョン

上記の例（8）の「下 90 以上」と「上 140 以上」では、物差し・秤・温度計などのように量・度・区画を示すものであることから、いずれも数量詞が名詞で示されるメモリを意味している。また、例（9）（10）なども数量詞の量化機能ではなく、メモリに近い概念であり、名詞を修飾する限定の機能があると言えよう。

４．２ 叙述部における数量詞

叙述部に出現する数量詞については、名付けのものが 10 例あり、数量のものが 9 例あることが分かる。まず、名付けの数量詞についての実例が次のように示される。

（11）三井ホームのモデルハウスには、21 世紀の家づくりのヒントがある。　三井ホーム

（12）a. 大丸は、あす2 日あさ 10 時から初売りです。
b. 大丸は、あす 2 日あさ10 時から初売りです。　大丸・東京

（13）いちばんの武富士は、21 世紀もお客様をいちばんに考えています。　武富士

以上から見ると、例（11）の「21 世紀の家づくり」では、名詞を修飾する用法が見られ、限定的な機能を果たしているものである。例（12）では、いずれの場合も数量詞が名詞よりも文の成分の中心となり、名詞のほうを省略しても本来の名詞句の情報量とはほぼ同じく文が成立する例とみなすことができる（宇都宮 1995）。

また、一般的に言えば、主題となっているものは旧情報であることに対して、叙述部に現れる数量詞の使用では、名付けのものだけでなく、数量のものも用いられることが見られる。以下のようにその例を示す。

（14）今年はいくつ増えるかな。ニッコリしたり、ほほえんだり…。暮らしの中のみんなの笑顔。
花王

（15）「はい、こちらマウス。えっ、こんどは10 万匹出動ですか。」　ＮＴＴ東日本

（16）セレナには、思い出につながるドアが2 つある。　ＮＩＳＳＡＮ

上記の数量詞は、いずれの場合も量化の機能を持っているものである。例（14）の場合、抽象名詞としている笑顔を数えるため、「いくつ」が使われる用法が見られる。そして、例（16）では、有形名詞としているドアを数え、「2 つ」が用いられる。この点について、「～つ」は有形名詞も数えるが、主として抽象名詞を数えるという明らかな違いが存在すると飯田（1999）は指摘している。さらに、文法上から見ると、量化の働きをしている数量詞は、述語となり動詞との関連性が強く、副詞的な用法がよく使われていると観察できる。

５．使い分け

以上のことをまとめると、広告キャッチに現れる数量詞の構文的な意味とその用法については、次の表に示す。

表 2　広告キャッチに見られる数量詞の使用

意味	主題部	叙述部	用法
名付けのもの	＋	＋	・数量詞が両方の場合にも用いられる ・主題部に出現する場合では、文中の主語として名詞的な機能を果たしている ・叙述部に現れる場合、数量詞が名詞より文の中心となり、名詞句から取り去ってもその情報量はあまり変わっていない
数量のもの	－	＋	・量化の数量詞が「ハ」を伴う場合は、少なくともという意味をしているため、本来の機能と違って別の用法と見なすべきのであろう ・主として抽象的事物を修飾する場合は、「～つ」で数える

上表から特に注目したのは、基本的な機能としている量化の数量詞が叙述部にしか使用されていない現象が見られる。なぜなら、羽鳥（2002）では「日本語の文の情報構造では、動詞が旧情報を表す場合は、その直前の位置が文中の最も新しい情報が現れ

る位置となり、より重要な情報ほど動詞に近い位置に置かれる」と述べられているように、つまり、量化的機能としている数量詞はほとんど広告キャッチに新しい情報の役割を演じているのではないか、と推測できる。このことからも、数量詞と広告キャッチとは関連が深いことを表したのであろう。

６．結び

本研究では、実際の場合から広告キャッチの用例を取り上げ、構文上、主題部と叙述部に分け、数量詞が広告キャッチに見られる特徴・働きなどについて分析した。名付けの数量詞は、主題部と叙述部の両方にも頻繁に使われているが、これに対して数量のものは、叙述部にしか使用されていないことが分かる。

従来、数多くの先行研究ではテキストのような典型的考察が行われてきたのに対して、本研究では数量詞が広告に現れる実際での使用状況についてはある程度解明できたが、日本語での数量詞と歴史的に深く関わるのには中国語の数量表現があると思われることから、両言語における対照的研究を今後の課題にする。

謝辞

本研究は、平成 17 年度日本学術振興会科学研究費補助金（No. 15520241）の補助を受けて行われています。

参考文献

[1] 飯田朝子　1999　「＜一個＞と＜一つ＞は置き換えられるか－いわゆるひとつの助数詞考」『言語』28-10　大修館書店
[2] 宇都宮裕章　1995　「数量詞の機能と遊離条件」『共立　国際文化』7
[3] 奥津敬一郎　1969　「数量的表現の文法」『日本語教育』14
[4] 佐治圭三　1991　「時詞と数量詞――その副詞的用法を中心として」『日本語の文法の研究』　ひつじ書房
[5] 佐久間鼎　1940　『現代日本語法の研究』　厚生閣（改訂版、1952　恒星社厚生閣）
[6] 羽鳥百合子　2002　「日本語の数量詞遊離：用例にみる機能的特性」『川村学園女子大学研究紀要』13
[7] 益岡隆志　1981　「文法関係と数量詞の遊離」『神戸外大論叢』32-5
[8] 三上　章　1953　『現代語法序説――シンタクスの試み』　刀江書院（復刊、1972　くろしお出版）
[9] 矢澤真人　1985　「連用修飾成分の位置に出現する数量詞について」『学習院女子短期大学紀要』23